



【事例】 歴史的土木遺産を継続的に活用するための施工工程の調整

<p>社会資本の概要</p>	<p>【所在地】 北海道稚内市 【社会資本の種類】 港湾 【社会資本の名称(事業名)】 稚内港北防波堤ドーム(港湾整備事業) 【事業主体】 国土交通省 【供用開始時期】 2002年(耐震補強)</p>
<p>配慮の概要</p>	<p>老朽化した歴史的土木遺産「稚内港北防波堤ドーム」の改修に際し、施工時も全天候型イベント施設として継続して利用できるよう、各種イベント開催のスケジュールにあわせて施工工程を調整した。</p>
<p>位置図</p>	
<p>施設の状況写真</p>	 <p>改修前の北防波堤ドーム。</p> <p>北防波堤ドーム内で行われる物産展の様子。</p> <p>北防波堤ドーム内で行われたコンサートの様子。</p>

観光との関わり	<p>○市民と観光客に親しまれている、稚内が誇る歴史的土木遺産</p> <p>稚内港北防波堤ドームは、かつて稚内～大泊(現在のサハリンコルサコフ)航路の発着場として利用されていた、半アーチ型の波よけに古代ギリシア建築を思わせる太い円柱と回廊をもつ防波堤である。高さ 13.6m、柱の内側から壁までが 8m、総延長 427m、柱の総数 70本、半アーチ型の構造形式で世界でも類をみない独特の形状を有する防波堤であり、2001 年には北海道遺産に指定された。稚内が誇る歴史的建造物として市民に親しまれるとともに、毎年多彩なイベントが行われ、たくさんの観光客が訪れている。</p>
配慮事項	<p>○保存改修の経緯</p> <p>1970 年代中盤に入ると構築後半世紀を経て老朽化が進み、利用上危険な状態になったため、解体される気運も強まったが、地元からの強い保存要請に応える形で、1978 年から全面改修が行われ、81 年にはその独特の景観がよみがえった。改修にあたっては、歴史的土木遺産である稚内港北防波堤ドームを市のシンボルとして地域振興に活用すべく、取り壊すのではなく、原型どおりの改修復元を行った。2002 年には阪神大震災の教訓から支柱部の耐震改修を行った。</p> <p>○イベントスペースとしての活用</p> <p>保存改修によって稚内港北防波堤ドームは全天候型イベント施設となり、ドームの音響効果を活用した「WAKKANAI みなとコンサート」、稚内の新鮮な海の幸や山の幸を提供する物産展、ドーム内にクラシックカーが勢ぞろいする「ノーザンロード・クラシックカーフェスティバル」、冬にはスノーキャンドルによりドームを幻想的な世界で彩る「彩北わっキャナイト」など、市民や観光客が参加できるイベントスペースとして活用されている。</p> <p>○耐震改修施工時における観光への配慮</p> <p>稚内港北防波堤ドームは市民にとってもシンボルであると同時に、貴重な観光資源であることから、耐震補強工事の実施にあたっては、観光シーズンのピーク時はできるだけ原型を見られるように配慮するとともに、各種イベント開催のスケジュールにあわせて施工工程の調整を行った。</p>
その他の工夫等	<p>○北防波堤ドームを核とした観光スポット整備の展開</p> <p>稚内港北防波堤ドームから西へは、まっすぐに散策歩道「しおさいプロムナード」が延びており、海を眺めながら散策を楽しむことができるようになっている。この「しおさいプロムナード」は、稚内港北防波堤に続く防波護岸の改良にあたって整備されたもので、ドームの景観に合わせた石張護岩に遊歩道を設置した、北海道で初めての親水性防波護岸となった。稚内港北防波堤ドームとともに稚内観光のシンボルとして親しまれている。</p>
関連ホームページ	<p>稚内市建設産業部水産商工観光課 http://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/section.main/suisan.kanko/point-kitabouhatei.htm</p>
連絡先	<p>稚内開発建設部築港課 TEL:0162-33-1000(内線 2363)</p>